

キャベツの栽培

◇栽培の3大要点

- ①**健苗の育成**：葉菜類は苗が大事。病気がないがっちりした苗。
- ②梅雨時期の**排水対策**：排水路設備、高畦、不良環境に負けない土作り。
- ③生育後半の**病害虫対策**と除草

<作型表>

●：播種 ▲：定植 ■：収穫

	3月	4月	5月	6月	7月
寒玉系品種	●	▲		■	
		●	▲		■
			●	▲	

- 株腐病対策のため、出来るだけ6月中旬に収穫を終える。
- 7月以降の収穫は、株腐病防除を徹底すること。（排水路、高畦、疎植、殺菌剤散布）

◇育苗（セルトレイの場合）

【トレイの準備】

- 128穴トレイ
- 低温期は黒色トレイ
- アンダートレー（育苗箱）は**底に穴が多く隙間が多いもの**
- 一度使用したトレイ・アンダートレーは消毒

【トレイの設置】

- 原則としてハウスに置く
- 空中に設置する**
- 日当たりの良い場所に置く
- 屋根は無滴フィルムを張る
- サイドは防虫ネットがおすすめ



【種まき】

- 育苗用土はセル専用培土（春まきは肥料多め）
- 育苗箱との間の土は除去**
- 専用の播種器具が便利
- 覆土はバーミキュライトなど（トレイが見える程度の覆土）
- 発芽適温20～25℃（地温）**

【かん水】

- セルトレイは乾燥しやすい
- 原則として**天気の良い午前中**に行う。雨天時は萎れていなければ無理してかん水しない。
- 夕方かけると水滴が乾かず、徒長や病気が出やすい
- トレイの周辺は、乾燥しやすいので、場所を切り替えて均一な苗を作る。

【温度管理】

	夜の気温	昼の気温
発芽後	10～15℃	20～25℃

- 低温期はトンネルなど保温資材を上手に使う
- 低温期でも好天時はハウス内は高温になる。換気をしっかりと！

【追肥】

- 葉色など生育状況を見て液肥で行う
- 本葉第1葉展開時頃から2～3回

【病害対策】

- 湿気が多いとべと病や黒すす病が出やすい
- サイド換気など風通しを良くし、通気性を良くし、夜は葉に水滴をつけない。
- 光線不足や肥料過不足を避ける。
- 殺菌剤（ダコニール1000、リドミルMZ水和剤、ポリオキシシンAL水溶剤等）

【虫害対策】

- 育苗ハウスのサイドに防虫ネット
- ハウス内外の雑草や被害苗は除去
- 殺菌剤の散布

【馴化（ならし）】

- 定植数日前になったら、本畑の環境に合わせるため、トレイを外に出すか、サイドを出来るだけ取り払い、ならしを行う。

◇本畑の準備

【ほ場の診断と土作り】

- 土壌診断を受ける・・・pH、EC、成分含有量、バランス
- 湿害に弱い・・・梅雨時期は排水対策（排水路整備、高畦）
- 完熟堆肥・・・①養分の供給源 ②土壌微生物の供給 ③水はけや肥料持ちを改善
- 土壌改良資材・・・①pH調整は石灰欠乏が出やすい畑は硫酸カルシウム（畑のカルシウム）

【根こぶ病対策】

- アブラナ科野菜（白菜、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー、チンゲンサイ、小松菜、つぼみ菜など）を連作すると発生しやすいので輪作を心がける
- 酸性土壌の改良（pH6以下で出やすい）
- 排水対策（特に転作田）
- おとり作物（ハイオーツ、小瀬菜大根）
- リン酸過剰の改善
- 病気の株の抜き取り
- 道具や農機の洗浄
- ネビジン粉剤、フロンサイド粉剤、オラクル粉剤
- ランマンフロアブル（苗灌注）



【施肥例】

□窒素、リン酸、カリ＝18kg、12kg、16kgが目安

肥料 (kg/10a)	元肥	追肥
完熟堆肥	3,000	
消石灰	100	
畑のカルシウム	60	
CDUたまご化成	80	
燐硝安加理S604		40～60

□品種や土壌条件・気象条件で変わります（**土壌診断の結果次第で単肥施用**）

□緩効性肥料を使い、追肥しない方法もある

□pHは6.0～6.5に調整、高いとホウ素欠出やすい

□ホウ素など微量要素欠乏が出やすい畑は、肥料で補う

◇定植

【うね作り】

□うね立ては適度な土壌水分の時に進行

□60cm×35cmが基本（4,760/10a）

□大玉に収穫したいときは、65～70×40～45cm

□**転作田では、高畦、ほ場の周りに排水路**

□定植前の除草剤：トレファノサイド乳剤、粒剤、クレマート乳剤

□定植後の場合：フィールドスター乳剤、ラッソー乳剤



【定植作業】

□定植苗の大きさは、本数2.5～3.0枚が定植適期

□殺虫剤を苗床散布：モスピラン粒剤、アルバリン粒剤等

□苗床灌漑剤のある：シュリボフロアブル、セルオーフロアブル

□底面給水などで根鉢に十分水を含ませ、やや深植えする（1～2cmの覆土）

□低温期（3月～4月上旬定植）は被覆資材を利用すると良い

◇定植後の管理

【追肥・中耕・土寄せ】

	時期	燐硝安加理S604	中耕・土寄せ
1回目	定植2～3週間後	20kg/10a	する
2回目	1回目の2～3週間後	20kg/10a	草が多ければ中耕

【除草】

□専用カルチ、管理機や器具での機械除草が基本

□雑草発生後に使える除草剤：**ナブ乳剤**（全面散布可、イネ科雑草に効果）、**バスタ液剤**（うね間散布、キャベツにかかると薬害）

【病気の防除】

●べと病

□葉脈間に黄褐色の病斑、裏には霜状のカビ

□やや低温で湿気が高いとき、肥料切れで出やすい

□育苗時から収穫時まで生育全般で出る。葉にも球にも出る。

□**リドミルMZ水和剤**、**フェスフィバルC水和剤**など

●株腐病

- 球の尻や側面から黒褐色、水浸状の病班ができ、全体に広がる
- 夏の高温多湿期に多く、梅雨時期など収穫期に雨が多いと出やすい
- 排水の悪いほ場が出やすい
- セイビアーフロアブル、アミスター20フロアブルなど

【害虫防除】

- コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、ウワバ、オオタバコガなどのチョウ目害虫は、系統の異なる薬剤をローテーション散布

系統名	薬剤名
フルベンジアミド系	フェニックス顆粒水和剤
クロラントリニリプロール系	プレバソンフロアブル5
オキサダイアジン系	トルネードフロアブル
プロベルニオキシフェニル系	プレオフロアブル
スピノシン系	スピノエース顆粒水和剤
マクロライド系	アフーム乳剤

- アブラムシにも注意・・・アドマイヤーフロアブル、モスピラン水溶剤

【防除上の注意】

- まず、耕種的防除：病気の予防には排水対策、高うね、かん水方法
- 畑を観察し、早く病害虫の発生に気づく
- 効果の高い薬剤の早めの散布で減農薬
- 農薬はローテーションで散布（1作型1回）
- 薬剤の混用は注意（薬害の危険性）
- 展着剤の使用（乳剤以外）：アプローチB1、スカッシュ、ニーズなど

→浸透力を高める（但し、機能性展着剤を使えない農薬に注意）

◇収穫

球を上から押してみても堅く締まってきたら収穫する。春蒔きは収穫が高温期となるので、裂球に注意する。

